

なぜ戦争がおこるの？

～国際政治学の視点から見るこれまでとこれから～

1. はじめに

現在、世界のあちこちで「戦争」がおきている

- ・ロシア×ウクライナ ・イスラエル×ハマス ・シリア内戦 ・イエメン ・ミャンマー……

なぜ戦争がおこるのか？→国際政治学(国際関係論)の観点から考える

- ・国際社会は弱肉強食の世界。国際法に違反したとしても「世界政府」が存在しないため、強者を罰することは難しい。
- ・日本人は敗戦の経験もあり厭戦感情が強いが、平和憲法は世界では特殊(日本、パナマ、コスタリカのみ)。

2. 戦争とは

戦争：単数の国家または複数の国家集団が、他国との間に存在する対立状態を軍事力で解決するため、正規軍による継続的・組織的な戦闘行為を行っている状態

内戦：国内での武力衝突(例：政府 対 反体制派)

紛争：戦争より小規模な軍事衝突(例：一地域をめぐる戦争)

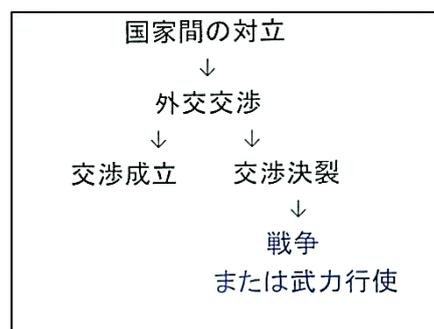
戦争のルール 宣戦布告 → 戦争 → 講和条約

*宣戦布告の前には外交交渉が存在

cf. 正式な抗議・勧告(外交官引上げ、大使館閉鎖など)

→最後通告(期限つきで相手への要求と従わない場合の攻撃を通知)

→相手従わない場合、宣戦布告



「戦争とは、他の手段をもって行う政治の延長」(クラウゼヴィッツ『戦争論』1832年)

19世紀まで：戦争は外交の延長。国家間の対立解消の正当な手段の1つ。

1928年のパリ不戦条約(ケロッグ＝ブリアン条約)＝侵略戦争の禁止(自衛はOK)

20世紀以降：二度の世界大戦は「総力戦」 21世紀にはテロとの戦争も

第二次世界大戦後(国連設立後)、「武力行使(use of force)は原則禁止」とされた(国連憲章2条4項)

＝「力による現状変更」(＝軍事力を用いて現在の国境線を変更しようとする)は認められない

＝戦後の国際秩序 ⇒ただし、例外あり

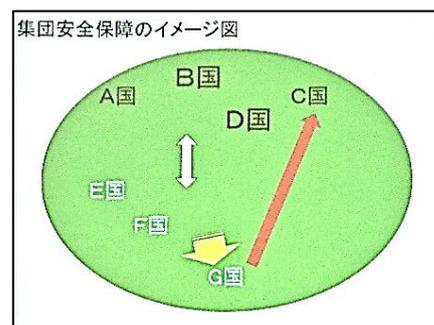
*現在、国際法的に武力行使が認められる2つのケース

①自衛の場合

②国連安保理決議があるとき 例：1991年湾岸戦争

潜在的対立国も含めてグループを作り、有事の際には決議に沿って協力して制裁を加えることもある(集団安全保障)

A・B・C・D ⇔ E・F・Gという構図であっても、G国がC国を侵略した場合には協力してG国に制裁を加える



3. 戦争がおこる要因

なぜ戦争がおこるのか？→主な4つの理由

- ① 領土や資源の奪い合い：国境付近の土地や、資源が豊富な土地を奪い合う
安全確保や経済利益のため。理由としては最も多い。
- ② 宗教の違い：宗教や宗派の違いによる対立
③とも近いが、文化や慣習と密接な結びつきがある。例えばユダヤ教、キリスト教、イスラム教は兄弟宗教とも言われるが、1神教という性質上、他の宗教の神は偽物という理屈になる。
- ③ 民族や文化の違い：民族、言語、文化・慣習、価値観、歴史観などが異なる場合
18世紀から存在していた「反ユダヤ主義」。ナチスのホロコーストはヒトラーの個人的な思想だけではない。背景には、排他的で数学に優れ、財産を多く持つユダヤ人への反感がある。
- ④ イデオロギーの違い：イデオロギー（主義・信条）が異なり、根本の価値観が対立する場合
冷戦は自由主義・資本主義（西側）と社会主義・共産主義（東側）の対立。

*現実の戦争は複数の要因が絡んでいることが多い

戦争によって得られる利益が戦争による損失を上回ると判断した場合、戦争を始める

○利益の例

- ・領土や資源の獲得
- ・自国の安全確保
- ・軍事経済による好景気
- ・軍需産業の利益
- ・国民感情の満足

○損失の例

- ・国民の死傷（民間人も含む）
- ・戦争の費用（戦費）
- ・経済基盤や社会基盤の破壊
- ・治安の悪化
- ・国家そのものの消滅の危機

4. ロシアによるウクライナ侵攻

概要

- ・2022年2月24日、ロシアが隣国ウクライナに侵攻（「戦争」という言葉をロシアは使っていない）
- ・南部のクリミア半島と、東部のドンバス地方（ルガンスク州とドネツク州）は2014年からすでにロシアや親ロシア派武装勢力が武力で制圧していた→2022年の侵攻はその続き？
- ・当初、ロシアは2週間程度でウクライナ支配が完了すると思っていた
→ウクライナ国民の強固な抵抗により長期化
- ・ウクライナのゼレンスキー大統領の国民への呼びかけと米欧諸国への支援要請、国際社会の非難
→米欧諸国の対露制裁と支援（＝ウクライナへの武器・兵器供与や資金援助）
＝ロシアにとっての誤算
→一時期は首都キーウ近くまでロシア軍が迫ったが、その後撤退
- ・2022年8月以降、ウクライナ軍は反転攻勢をかけたが決め手に欠け、現在はこう着状態
＝戦争の長期化
⇒2年経っても停戦のめどなし
- ・2022年9月30日、
ウクライナ東部・南部4州（ドネツク州、ルガンスク州、ザポリージャ州、ヘルソン州）を
ロシアが併合←住民投票を経て

ロシアの侵攻理由

① プーチン大統領個人の意向

別名「プーチンの戦争」

プーチン大統領は以前から「強いロシア」の復興と旧ソ連の勢力圏の回復を目指すと言

←冷戦対立構造の継続？←プーチン大統領は冷戦時代 KGB＝ソ連のスパイとして活動

プーチン大統領の演説（2005.4）：「ソ連崩壊は 20 世紀最大の地政学的悲劇」

プーチンは国内で独裁的権力を強化（2000 年から権力の座）

② NATO の「東方拡大」に対する恐れ

ウクライナは「東と西のはざまの国」＝旧ソ連領の西の端の国

1991 年 8 月、ソ連からウクライナ独立、1991 年 12 月、ソ連崩壊

→その後、東欧諸国（かつての東側諸国）の NATO 加盟が進む

NATO の「東方拡大」（1991 年 16 か国→2024 年 32 か国）

1999 年加盟：ポーランド、チェコ、ハンガリー

2004 年加盟：ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、
スロベニア、エストニア、ラトビア、
リトアニア

2009 年加盟：クロアチア、アルバニア

2017 年加盟：モンテネグロ

2020 年加盟：北マケドニア

2023 年加盟：フィンランド 2024 年加盟：スウェーデン

(2020 年時点)

※上記の下線国：ウクライナと国境を接している国



⇒プーチンの主張：NATO が「我々の民族としての歴史的未來」を脅かしている

「ロシアとその国民を守るため」自衛のためのウクライナ侵攻

③ ウクライナとロシアは「兄弟国」

ウクライナ国内のロシア系住民の多さ（約 2 割）

文化的・歴史的な「近さ」←キーウは「ロシア発祥の地」

⇒プーチン大統領は侵攻前の 2021 年 7 月に

「ロシア人とウクライナ人は歴史的に一体性がある」とする論文を発表。

ウクライナの歴史

- ・ 18 世紀～帝政ロシアの保護国下に
- ・ 1917 年のロシア革命を機にウクライナはいったん独立を宣言→共産主義勢力に敗北
⇒ウクライナ・ソビエト社会主義共和国となり、
1922 年のソ連建国時にソ連構成国の 1 つに
- ・ 1986.4 チェルノブイリ原発事故
- ・ 1991.8 ソ連から独立（1991.12 ソ連崩壊）
- ・ 2004.11-2005.1 オレンジ革命
- ・ 2014.2 マイダン革命 =親ロシア政権を打倒し、親 EU 政府に ⇒ロシアの介入
- ・ 2014.3.18 ロシアのクリミア併合
- ・ 2014.5～ 東部のドネツク州とルガンスク州の一部を親ロシア派が制圧→内戦状態に

5. 今後どうなる？

ウクライナ側の要求：ロシア軍の撤退と領土回復
戦争による全損害の賠償
二度と侵略しない保証

ロシア側の要求：ウクライナの NATO 非加盟
併合した 4 州の承認
親ロシア派への政権交代

どちらも相手が呑めない条件を提示
＝交渉成立の見込みなし

	ロシア	ウクライナ
総兵力	約90万人	約26万人
軍事費	約617億ドル	約59億ドル +米欧支援 (米支援約1130億ドル)
人口	約1億6000万人 (クリミア含む)	約4160万人 (クリミア除く) 約600万人が避難
死者	約27~31万人 (ロシアは公表せず)	3.1万人(2024.2公表) (民間人除く)

- ・戦争の長期化による欧米諸国の「支援疲れ」←国内からの批判
- ・ロシアは現在、ウクライナ領土の約 18%を掌握＝ここでやめてもロシアには利益あり
- ・ヨーロッパ諸国はロシア産の資源に依存（*現在、脱ロシアを推進中）
→距離も近く、完全に関係を断つのは困難？（ウクライナも含め）
- ・ロシアを支援する国もある（中国、北朝鮮）⇒日本にも影響？

6. 最後に

- ・戦争は悲惨なものではあるが、現実にはささいなきっかけでもおこる
例) 独裁者の意向、判断ミス
- ・一度始まってしまった戦争を終わらせるのは容易ではない
- ・「話し合いで解決」は実は相当困難

参加しての感想（一部抜粋）

- ・大学の先生の講義は聞く機会が少ないので
これからも取組んでもらいたい。
参加者の意見も違うが相互の議論も良いかも。
- ・権威主義国家が増えると戦争が多くなるような
気がする。マイ国家、国民ファーストは危険。
人命第一、思いやりが大切。
- ・今、この世界には世界政府が存在しませんが、
仮に世界政府ができたなら、戦争を減らすことができるのか気になりました。
日本は考えられる他国の攻撃から自国を守れるだけの軍事力は必要だと思います。



- ・福島先生が、意見の偏りがなく戦争をとらえているところが良かった。他の人の意見も聞けたところが良かった。
参加する方々が年齢が高かったため、感情論が強かったように思いましたが、その方々が幼少期つらい環境におかれていたためと思います。戦争を知らない年代がどうとらえているのか、私達より下の子たちが良く考えていかなくてはいけないなと思いました。

(文責 周西公民館 山田)